

「今期国内を黒字化」

TBK社長 生産効率化へ

子会社統合のシナジーも

商用車向けブレーキやオイルポンプを手がけるTBKは、13日に都内で決算説明会を開いた。尾方社長は国内子会社の経営統合によるコスト削減や、工場の生産性向上に関する新たな取り組みを説明した。製品開発では、人工

知能(AI)を解析シミュレーションに用いることで開発コストの削減と期間短縮につなげる考えも示した。

子会社の経営統合は24年1月に完了する予定だ。完全子会社の東京精工(福島県玉川村)とティービアー(山

コスト削減や生産性向上の取り組みを説明する尾方社長



形県鶴岡市)を合併させ、東京精工はTBKの福島工場(福島県玉川村)に再編、また、ティービアーはTBKの鶴岡工場(山形県鶴岡市)

とする。2社の合併により、間接部門や生産管理の重複を解消し、初年度には1億円弱、数年後には3億〜4億円のコスト削減効果を見込む。

工場の生産性改善も進める。「トヨタ生産方式」の自主勉強会として発足し、新たな生産方式の確立などに向けて活動する「NPS研究会」に入会した。福島工場などで8月から原価低減を中心に活動を始めている。今後、社内でトレーナーを育成し、海外工場へも生産性改善のノウハウを指南していく。

製品開発ではAI技術を活用してコストを減らす。AIを用いた解析条件の組み合わせの自動化で大学と共同研究に取り組んだ。研究成果を生かした解析シミュレーションを活用し、開発期間の短縮やこれまで試作にかかっていたコストの削減を目指す。

尾方社長は「(新たな取り

組みも取り入れながら)今期国内の黒字化を達成して、北米や中国の黒字化にもつなげたい」と語った。

TBKの23年4〜9月期業績は売上高が前年同期比5・8%増の277億3千万円で、営業損益は前年同期の6億2900万円の赤字から2億1300万円の黒字に転換した。日米や中国では増益を確保し、前年同期から営業損失幅が縮小した。